

スケジュール

講義	休憩	事例検討
10:30~13:00	13:00~14:00	14:00~16:30

申込要領

対象	臨床心理士、公認心理師、精神科医、その他の医療・教育・福祉等で心理臨床に関わっている方。または、それに関わる学生、大学院生。事例の守秘を守る方。
各回定員	講義：50名 講義+事例検討：35名
申込方法	申込フォームからお申し込みください。 (QRコード、もしくはホームページ内のリンクより)
申込期限	各開催日2週間前まで。定員に達した場合はその時点で締切。
受講料	講義：3,000円 講義+事例検討：6,000円 申込受付後に振込先と振込期日をご案内いたします。 申込受付時にお送りしたメール、払込明細書は、セミナー当日まで保管をお願いいたします。一度納入いただきました受講料は原則として返金致しかねますので、あらかじめご了承下さい。
当日受付	開始時刻の30分前より入室受付を開始いたします。開始時刻の10分前までにはご入室ください。

申込フォーム
QRコード



2022年度 KIPP 対人関係精神分析セミナー

一般社団法人 京都精神分析心理療法研究所

所長
横井 公一

研修委員会セミナー係
今江 秀和・岡村 香織・森 真治・山岡 亜里紗・小山 恵・山下 美穂・織田 万美子

【問い合わせ先】

一般社団法人 京都精神分析心理療法研究所

〒612-8083 京都市伏見区京町4丁目156番地1 桃山ビル3階

TEL:075-623-0823 E-mail:info@kipp-u.co.jp

URL:https://www.inst.kipp-u.co.jp/

1920年代後半から1930年代にかけて日本の精神分析運動が大きな盛り上がりを見せました。その後も多くの精神分析家がさまざまな理論を日本に紹介し、私たちの礎となっています。およそ百年経った今、私たちは先達から何を継承し、どのように精神分析を発展させていくことができるでしょうか。みなさまと一緒に考えていくセミナーを企画いたしました。ご参加を心よりお待ちしております。

2022年度テーマ

「精神分析的な心理療法のこれから－継承と発展－」

第1回「子どもの精神分析的臨床の現状と課題」

日程：2022年6月5日(日)

講師：鶴飼 奈津子 UKAI, Natsuko (大阪経済大学人間科学部／大学院人間科学研究科)

子どもが何らかの成長・発達をめぐる困難を抱えた際、家族とともに相談機関を訪れ、心理療法などの支援を受ける場合もあれば、家族のみが相談に訪れ、子ども本人には会うことができない場合もあります。いずれにせよ、子どもは日々、基本的には家族の中で生活し、成長していきます。つまり、子どもの相談においては、家族への対応と支援は不可欠であり、また、学校などの所属機関との連携も欠かせません。そうした「環境」との協働があってこそ、子どもの心理療法は生き、また協働ぬきに子どもの心理療法を語ることはできません。本講義では、そうした環境のアセスメントと、子どもの精神分析的な心理療法の立ち上げについて、その現状や課題を取り上げ、検討します。

〈参考文献〉

鶴飼奈津子 子どもの精神分析的な心理療法の基本<改訂版> 2017年 誠信書房

アン・ホーン、モニカ・ラニヤード編著 鶴飼奈津子監訳 子どもの精神分析的な心理療法のアセスメントとコンサルテーション 2021年 誠信書房

第2回「精神分析的セラピーの学び方について：地に足のついたセラピストになるために」

日程：2022年7月10日(日)

講師：吾妻 壮 AGATSUMA, Soh (上智大学総合人間科学部)

精神分析の本質は、精神分析について語ったり書いたりすることにではなく、精神分析を実践することにこそあります。精神分析について沢山語れるようになったり、精神分析についての知識が増えることが、むしろ逆に精神分析の本質から自らを遠ざけてしまいかねないところに、精神分析の固有の難しさと奥深さがあると思います。本講義では、精神分析を学ぶにあたっての心がけについて話します。臨床実践に強い、いわば地に足のついたセラピストになることについて考えてみたいと思います。

〈参考文献〉

吾妻壮 精神分析の諸相－多様性の臨床に向かって 2019年 金剛出版

吾妻壮 精神分析的アプローチの理解と実践－アセスメントから介入の技術まで 2018年 岩崎学術出版社

第3回「関係モデルによる統合的心理療法」

日程：2022年9月4日(日)

講師：杉原 保史 SUGIHARA, Yasushi (京都大学学生総合支援センター)

心理療法への統合的アプローチは、クライアントに合わせて多様な学派の技法を活用する実践スタイルである。これまでに蓄積されてきた効果研究によれば、学派間の治療効果の違いは小さいものでしかない。それよりもセラピスト間の治療効果の違いの方がはるかに大きい。そしてその違いは、効果的な治療関係を形成するセラピストの能力と主に関わっている。にもかかわらず多くのセラピストは、成功するためには優れた学派のセラピーをマスターすることが必要だと信じて小さな違いを必死で追究している。極端な場合、クライアントの反応よりも学派のテキストを参照し、スーパーバイザーの反応を伺うようになる。学派を重視した学びは、クライアントをセラピーの受動的な受け手として見る見方を誘導してしまうことでもセラピーの効果を損なう。学派を超えた視点から、効果的な心理療法実践について考えてみたい。

〈参考文献〉

心理療法統合学会監修 杉原保史・福島哲夫編 心理療法統合ハンドブック 2021年 誠信書房

杉原保史 統合的アプローチによる心理援助 2009年 金剛出版

第4回「対人関係と夢からアセスメントする」

日程：2022年10月9日(日)

講師：鈴木 健一 SUZUKI, Kenichi (名古屋大学学生相談センター／京都精神分析心理療法研究所)

人と人との関係や夢を手がかりとしてどのようにアセスメントをするのか、そのクライアント理解について戸惑うことも多い。クライアントの対人関係をどのような観点から詳細な質問を行っていくか、報告された夢をどのような観点からアプローチしていくのか、それらを対人関係学派的な基本的な考え方から紹介したい。そして様々な事例を通して、意識と無意識の面白さをみなさんと一緒に考えてみたい。

〈参考文献〉

ブレッシュナー著、鈴木健一監訳 夢のフロンティア：夢・思考・言語の二元論を超えて 2018年 ナカニシヤ出版

第5回「親-乳幼児心理臨床（母子臨床）の視点から」

日程：2022年11月6日(日)

講師：河崎 佳子 KAWASAKI, Yoshiko (神戸大学大学院人間発達環境学研究科)

親-乳幼児心理臨床の先駆者らの理論や実践について触れた後、私自身がN Yにあるメンタルヘルスセンターの ZERO TO THREE プログラムで担当した母子臨床事例を紹介します。次いで、聴覚障害乳幼児と保護者を対象に大阪府で実施している早期支援事業を紹介し、生涯発達を見据えた精神分析的な心理療法の視点を導入することで、いかにダイナミックで発達促進的な力が働き出し、子どもだけでなく保護者やスタッフを含めた成長の輪が広がるかを映像資料を含めてお伝えしたいと思います。

〈参考文献〉

D.N.スターン著、馬場禮子・青木紀久代 訳 親-乳幼児心理療法 2000年 岩崎学術出版社

Ghosts in the Nursery:A Psychoanalytic Approach to the Problem of Impaired Infant-Mother Relationships, Selected Writings of Selma Fraiberg, Ohio State University Press, 1987

第6回「精神分析における女性論」

日程：2022年12月4日(日)

講師：西 見奈子 NISHI, Minako (京都大学大学院／白亜オフィス)

フロイトは、女性患者との精神分析を通して、さまざまな精神分析理論を見出していった。けれども、エディプスコンプレックスや去勢不安など、男性をモデルにして作られた精神分析の概念が果たして女性にも当てはまるものなのかという疑問は、フロイトの時代から指摘されてきたものである。精神分析においては、そうした疑問や批判に応える形で女性論が発展してきた。例えば、ジョアン・リビエール、メラニー・クラインといった女性分析家たちは、女性の性発達について新たな理論を提案している。講義ではそれらを紹介するとともに、そうした女性論を臨床に生かす視点について検討したい。

〈参考文献〉

Freud, S. (1932) Female Sexuality. International Journal of Psychoanalysis,13, 281-297

Klein, M. (1932) The effects of early anxiety-situations on the sexual development of the girl. In. Klein, M. The psycho-analysis of children. London, The Hogarth Press

第7回「精神分析的コーチング」

日程：2023年2月5日(日)

講師：川畑 直人 KAWABATA, Naoto (KIPP／京都文教大学臨床心理学部)

現在、さまざまな領域で心理学的支援が展開されている。そこではオーソドックスな精神分析のスタイルをそのままの形で実践することは不可能である。しかし、精神分析的な観点はさまざまな形で組み込むことが可能であり、それらを精神分析的コーチングという名の下で、汎用性のある概念にまとめてみたい。コーチングという言葉は、心理の世界ではあまりなじみがないと思うが、システム・サイコダイナミックな観点からヒントを得ている。また、サリヴァンの思想の中に、コーチングとなじむ考えが含まれていると考えている。セミナーでは、この概念の有効性を、参加者の皆さんと共に考えてみたい。

〈参考文献〉

川畑直人 (2019) 対人関係精神分析の日本における展開 京都精神分析心理療法研究所編対人関係精神分析の心理臨床 誠信書房 pp.270-290

第8回「関係精神分析の現在」

日程：2023年3月5日(日)

講師：横井 公一 YOKOI, Koichi (微風会 浜寺病院)

1980年代に米国精神分析における「関係性への転回」を機に誕生した関係精神分析は、外傷理論、アタッチメント理論、メンタライゼーション理論など、その近隣の理論とお互いに影響を与え合いながら、今日もまた発展を続けている。関係精神分析は、自我心理学、対人関係精神分析、対象関係論、フェミニズム精神分析などの学派を源流として形づくられて、現在も、場の理論、間主観性理論、感情の相互調整理論、プレゼント・モーメントの理論など、いくつかの理論を含み込んだ複合的な流れとして展開し続けている。本講義では、それらの流れを縦糸に、そして関係精神分析を特徴づけているいくつかの観点を横糸に、関係精神分析のこれまでと今とを描き出したい。

〈参考文献〉

岡野憲一郎・吾妻壮・富樫公一・横井公一著 関係精神分析入門：治療体験のリアリティを求めて 2011年 岩崎学術出版社

岡野憲一郎編著 臨床場面での自己開示と倫理：関係精神分析の展開 2016年 岩崎学術出版社